



福島県学力調査の問題は、公表することができないので、**定着確認シート**の問題を使って、正答率が低かった問題の分析、授業の改善の方法について、解説していきたいと思います。

定着確認シートの問題は、福島県学力調査の問題と似ているものが多いんだね！



問題番号 2(3) 接続語を使って、文を二つに分ける問題（短答）

出題のねらい

文と文の意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書くことができる。3・4年伝国（1）イ（ク）

正答

が た く さ ん い た 。 だ から 、 ほ く も □ 多 く の



平成二十五年年度 第六回定着確認シート【第六学年】

毎回、六年生の「読み聞かせ」は好評で、楽しみにしてくれる一、二年生がたくさんいたので、ぼくも、多くの人の前で「読み聞かせ」をする水曜日をとても楽しみにしていた。

2 【文章の一部】の中の _____ 部を、主語に注目して

二つの内容に分けて書き直します。つなぎ言葉には、

「だから」を使います。

(1) 一つ目の文の終わりの七文字と、二つ目の文の

「だから」に続く七文字を書きましよう。なお、

読点（、）も字数にふくみます。



これまでの指導を振り返って、この問題の正答率は、なぜ低いのかな？



文法指導にありがちな、教科書の内容を確認するだけの講義形式、一斉指導の授業では、児童に言葉の力は身に付きません。

授業をこう変えてみよう！（言語活動の充実）

「文と文をつなぐ言葉」 7時間扱い （4年光村図書）



まず

学習指導要領の指導事項から、身に付けたい力を確認する。

第3学年及び第4学年 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)イ(ク)
指示語や接続語が文と文の意味のつながりに果たす役割を理解し、**使うこと**。
身に付けたい力

「接続語の役割を理解し、使うことができる。」

次に

単元を貫く言語活動を設定する。

単元を貫く言語活動として 「接続語カードを作る」

- 表 「例文」 裏 「働き」
- 表 「2文を接続語でつなぐ例文」 裏 「意味を変えずに1文でつなぐ例文」
などが書かれたカード

最後に

単元を貫いて位置付ける。

児童の「やってみたい！」学習にする。

- 教師が接続語カードの実物を提示する。
- 教材文を学習し、それをもとに接続語カードを作る。
 - ・ 前半 教科書の内容を学習 後半 接続語カード作り
- 接続語カードを使って活動
 - ・ 接続語カードの分類 接続語カードを使ったクイズ
 - ・ 自分が作った接続語カードの伝え合い

身に付けたい力は、「**接続語の役割を理解し、使うことができる。**」
であることを常に意識して、「めあて」と「まとめ」を設定する。

自分の学校の正答率が低かった問題を中心に分析し、授業改善につなげてください。

今回は、小学校「読む」領域の問題を分析します。

